

「でんきと私」 静岡県立科学技術高等学校 2年 電気工学科 住吉 虎太郎

まず電気とは、電荷の移動や相互作用で起こる様々な物理現象の総称で、雷、静電気といった日常的な現象の他、電磁場や電磁誘導といった電気工学によって起きる現象もあります。そして、電気はエネルギー源として利用でき、交通機関の動力源、空気調和、照明など、様々なところで使われています。また、電気工学は電子工学へ発展し、電気通信、コンピュータなどが開発され、広く普及しています。この電気というのはどうやって作られるのかというと、電気はコイルと磁石を使って作っています。コイルとコイルの間で磁石を回すと、コイルに電気がおこります。これが発電のしくみです。実際の発電所では、タービンという大きな羽根車を蒸気や水の力で回し、タービンとつながっている発電機（コイル）がいっしょに回することで電気を作っています。そしてこの電気を熱や光、動力などに変換され世界の様々なものが動いています。

そんな電気ですが、僕が怪我をした時、リハビリで筋肉に電気を流しました。その時になぜ電気を流すといいのか気になり、トレーナーの方に聞いたら、脳は体に電気信号を送って動かしているそうでそれを外部の電気から伝えることで血流を良くしたりできるそうなのです。それを聞いた時、今この世の中では電気をそういう使い方もできるのだなと驚きました。考えてみると車椅子で手を使わずに脳からの信号を読み取り自分の行きたい方向に進めるといふ車椅子なども開発されていて電気というのは考えればどこまでもいい使い方ができるものだと思います。

僕はこれからもずっと不可欠となる電気をもっと良い使い方ができるように考えて生きていきたいと思いました。